

# B帯ワイヤレス(MPR52-ENG) クイックガイド

トランスミッター  
MTB40S



トランスミッター  
MTP40S  
(MTP41S)



レシーバー  
: MPR52-ENG



# はじめに

このクイックガイドは、B 帯域で MRP52-ENG 送信機と MTP40S (MTP41S) / MTB40S 送信機を運用するために必要な基礎的な導入方法、設定方法を御紹介しています。

## 目次

はじめに.....	2
目次 .....	2
トランスミッターの導入 .....	3
電源 .....	3
Menu 操作 .....	4
マイク.....	4
コンパクター .....	5
RF Power 設定.....	5
周波数の設定 .....	6
アンテナ.....	6
トランスミッター (MTB40S) の導入 .....	6
電源 .....	6
マイク.....	7
設定メニュー (補足) .....	8
レシーバーの導入 .....	9
電源 .....	9
Menu 操作 .....	10
コンパクター .....	10
Advanced 設定 .....	11
周波数の設定 .....	11
アンテナ.....	11
オーディオ出力の設定 .....	12
赤外線シンク.....	13
バッテリー持続時間 (参考) .....	14
<b>B 帯の周波数.....</b>	<b>15</b>
GP と CH.....	15
15 波の多チャンネル運用 .....	15

# トランスミッターの導入

## 電源

フロントカバーを開けると、単三電池 2 本（※）を装着することができます。電池は、アルカリ電池、ニッケル水素電池、専用のリチウムイオン充電電池を御利用いただけます。

※ 単三電池 1 本仕様の MTP41S もあります。



## バッテリー

電池は、正しい向きに新品（または充電された）電池を入れてください。ユニットが起動したら、LCD 画面の右側にバッテリーレベルが表示されるので運用中に残量を確認することができます。

## 電源投入

上部にトグル式の電源スイッチがあるので、“0”の位置から“1”の位置へスイッチを操作すると電源が入り、起動後に送信出力が開始されます。ディスプレイの右上に、“RF 10”と表示され、LED が緑色に点灯している時は、送信出力しています。



送信出力せずに電源だけ入れたい場合は、フロントカバーを開けて、SELECT スイッチを押し込んで電源をいれてください。ディスプレイの右上に、“RF off”と表示され、LED が赤く点灯している時は、送信出力していません。（一定時間操作をしないとディスプレイは消灯して、ユニットの電源が切れます。）

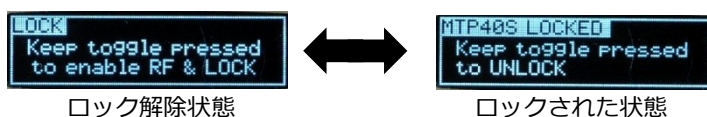


## 電源を切る

上部のトグル式電源スイッチを“0”の位置にして電源を切ります。（もしもロックモードに入っている場合、トグルスイッチが無効になっておいるため電源（と送信出力）が切れることはありません。ロックモードを解除してからスイッチを“0”にしてください。

## ロックモード

ロックモードで LOCKED 状態にすると、常に送信出力した状態でボタン操作や電源スイッチ操作を受け付けなくなります。ロックモードは、メニューの“LOCK”表示中に SELECT スイッチを長押しして切り替えることができます。



## Menu 操作

レシーバーの電源が入った状態で、SELECT ボタンを左右に操作すると、MENU リストの設定オプションを変更することができます。

## マイク

### モード（配線）

運用するラベリアマイクロフォンを装着し、コネクタ配線にあったモードに設定してください。MENU 画面から、**MIC > Mode** に入り、[2 wires] [2 wires+bias] [3 wires] から設定できます。

### レベル

左から2つめの GAIN ボタンを押すと Gain を調整する画面にアクセスできます。マイクに向かって発声し、適切なインプットレベルになるように SELECT ボタンを左右に操作して Gain を調整してください。最後に SELECT ボタンを押して設定を確定してください。



## ハイパスフィルタ

必要に応じて、低域成分をカットするハイパスフィルタを有効にしてください。MENU 設定から、**AUDIO > HP Filt** に、Flat/60/80/120/170/250/400Hz のオプションがあります。

## リミッター

必要に応じて、Menu 設定から、Audio > Limiter で、On/Off を設定してください。オーディオレベルが大きすぎてリミッターが動作すると、LED が青色に点灯します。

## コンパンダー

最適なオーディオ品質を保つため、コンパンダーの設定を適切なオプションに設定する必要があります。トランスミッターの Noise R 設定と、レシーバーの Expander 設定は同じオプションをアサインしてください。**推奨オプションは、JNR-Wisy** です。



※備考：JNR(ENR)はノイズ耐性に適する設定で、JNC(ENC)はヴォーカルに適した設定です。

## RF Power 設定

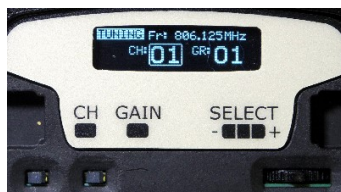
RF Power オプションは、“10” と “L10” があります。6 波より少ない運用では“10”に設定することでトランスミッターのバッテリー消費を抑えることができます。“L10” は、B 帯という狭いバンド内で多チャンネル運用するための Low Intermodulation モードです。



## 周波数の設定

任意の運用周波数（806MHz～810MHz）で、レシーバーと同じ周波数に設定してください。

CH ボタンを押すと周波数設定が表示されます。



## アンテナ

運用周波数によってアンテナの型番が異なります。適切なアンテナを運用する周波数に合わせて装着してください。アンテナの型番を確認するには、ユニットを再起動させ、起動時に表示される“Ant: 808” という番号を確認してください。



## トランスミッター（MTB40S）の導入

MTB40S は、XLR コネクターにペンシル型のコンデンサーマイク（※）を挿し込んで運用できるプラグオン・トランスミッターです。



## 電源

※ Phantom(48V)をオフに設定してダイナミックマイクも利用できます。

### 電池の入れ方

バッテリーケースのカバーを開けると単三電池 2 本を装着することができます。電池タイプはメニュー設定で、Alkaline, Ene-PRO, Lithimu を指定できます。電池の挿入向きは、型番・シリアルナンバーのステッカーに表記されています。



## 電源投入

【ON】ボタンを押すと、起動後に送信出力が開始されます。

※本体にある PWR 文字は Firmware Update により無効になりました。



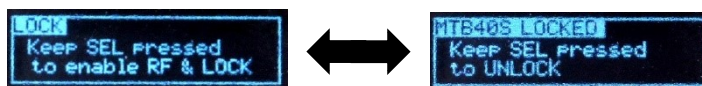
送信出力せずに電源だけ入れたい場合は、【CH/GAIN】と【ON】ボタンを同時に押し続けてください。画面に“RF OFF” が点滅して起動します。（一定時間操作をしないとディスプレイは消灯して、ユニットの電源が切れます。）

## 電源を切る

【OFF】ボタンを電源が切れるまで押し続けてください。（注意：ロックモードに入っているとこの操作で電源を切ることはできません。）

## ロックモード

ロックモードで LOCKED 状態にすると、常に送信出力した状態でボタン操作や電源スイッチ操作を受け付けなくなります。ロックモードは、メニューの“LOCK”表示中に【ON】ボタンをを長押しして切り替えることができます。



ロック解除状態

ロックされた状態

## マイク

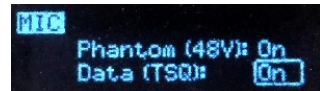
ゲインの調整、周波数の設定、ハイパスフィルタ、コンパnderの設定等は、別ページの MTP40S の設定を参照ください。

## 設定メニュー（補足）

MTB40S は、MTP40S に無くて MTB40S にだけあるメニュー設定について。

### MIC - (Phantom):

コンデンサーマイクを利用するときは、メニュー設定の Phantom(48V)を “On” にしてください。



### MIC - Data(TSQ):

トーンスケルチ設定は基本的に “On” で利用してください。“Off” にすると、レシーバー側のトーンスケルチ有効によって音声ミュート状態になったり、トランスミッターのバッテリー残量が表示できなくなります。

### RF On/Lock – RF Out:

ラジオマイク電波の送出しの設定です。



### RF On/Lock – Autolock:

デフォルトは “Off” です。“On” にすると、ディスプレイ消灯後に自動的にロックモードに入ります。【ON】ボタンで一時的にロックを解除できますが、ふたたび画面消灯後にロックされます。





## レシーバーの導入

### 電源

フロントカバーを開けると、単三電池 2 本を装着することができます。電池は、アルカリ電池、ニッケル水素電池、専用のリチウムイオン充電電池を御利用いただけます。



### バッテリー

電池は、正しい向きに新品（または充電された）電池を入れてください。ユニットが起動したら、LCD 画面の下側にバッテリーレベルが表示されるので運用中に残量を確認することができます。



画面の左右に 1 と 2 に分割してトランスミッターの情報が表示されます。ここに表示されるバッテリーレベルは、トランスミッターの電池情報です。

### 電源投入

電源を入れるには、[PWR EXIT] ボタンを長押ししてください。



## 電源を切る

[PWR EXIT] ボタンを長押しすると、画面でカウントダウンが始まり、最後にシャットダウンします。

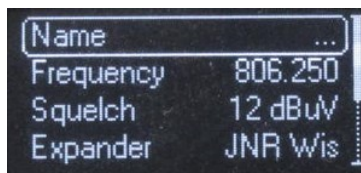


## Menu 操作

[PWR EXIT] ボタンと [SAVE SEL] ボタンを同時に押すと Menu 設定に入ることができます。

## コンパンダー

最適なオーディオ品質を保つため、コンパンダーの設定を適切なオプションに設定する必要があります。Menu 画面から **Advanced > Edit RX1 > Expander** で、トランスミッターで設定されているオプションと同じ設定に合わせてください。**推奨オプションは、JNR-Wisy** です。

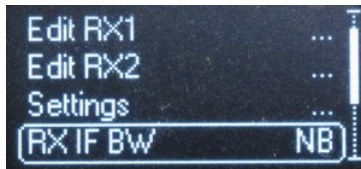


※備考：JNR(ENR)はノイズ耐性に適する設定で、JNC はヴォーカルに適した設定です。

## Advanced 設定

B 帯という狭いバンド内で多チャンネル運用するためには、ナローバンド設定にする必要があります。

MTP40S と MRP52-ENG(B3) のペアで最大 15 波を運用するには、両方の機材がナローバンドで動作する必要があります。Menu 設定で、**Advanced > RX IF BW** で **NB** に設定してください



※備考：トランスミッター側では、RF/BATTERY > RF Power を “L10” に設定する必要があります。

## 周波数の設定

任意の運用周波数（806MHz～810MHz）で、トランスミッターとレシーバーを同じ周波数に設定してください。

## アンテナ

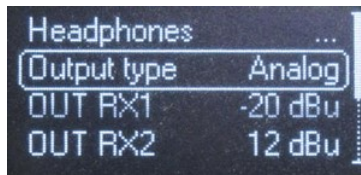
運用周波数によってアンテナの型番が異なります。適切なアンテナを運用する周波数に合わせて装着してください。アンテナの型番を確認するには、ユニットを再起動させ、起動時に表示される “Ant: 808” という番号を確認してください。



## オーディオ出力の設定

### TA-5 出力

レシーバーのオーディオ出力は、アナログ信号かデジタル信号を選択できます。Menu 設定の **Audio Settings > Output type** で Analog を選ぶとアナログ信号が出力され、Digital を選ぶと AES3(SF48kHz)が TA-5 コネクターに出力されます。出力レベルは OUT RX1 / OUT RX2 で調整できます。



### ヘッドフォン出力

レシーバー上面の 3.5mm ジャックにヘッドフォンを接続してモニターすることができます。音量やソースの設定は、Menu 設定で、**Audio Settings > Headphone** で調整できます。

### トーンスケルチ設定

Menu 設定で、Advanced > Edit RX1 > Tone sq. でスケルチを有効にすることができます。(デフォルト(Factory 設定)は Off です。)スケルチを On にすると電波状況が悪くてもノイズが入りにくくなります。ノイズが入るよりも発話内容が途切れることを避けたい場合は Off にしてください。

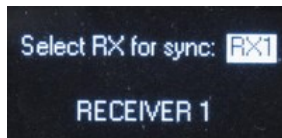
## 赤外線シンク

赤外線通信により、レシーバーに設定した周波数をトランスミッターにシンクさせることができます。

### 1) レシーバーの準備

レシーバー側の周波数を先に合わせ、シンク（データ送出）するために、【SAVE/SEL】と【↑】ボタンを同時に押してシンクモードにします。

次に、シンクしたい方のレシーバー（RX1 か RX2）を選択します。



### 2) トランスミッターの準備

トランスミッター側を赤外線受信モードにするには、SELECT ボタンを操作して、“IRDA Enabled” と画面に表示させてください。



### 3) シンクさせるには。

トランスミッターの設定周波数をレシーバー（RX1 か RX2）の周波数に同期させるには、赤外線通信を利用します。

赤外線通信用の受光部が向かい合うように、ユニット双方の向きと位置を調整してください。

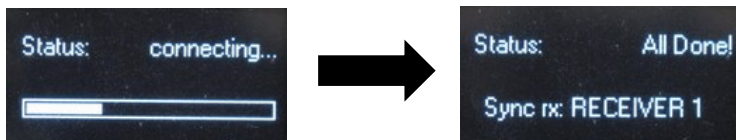
レシーバー



トランスミッター



通信が完了すると、レシーバーの画面は、「connecting…」から、「All Done!」に表記が変わります。



## バッテリー持続時間（参考）

MTP40S 送信機：約 12 時間（単三アルカリ電池 2 本、RF Power 設定 “10”）  
（※ RF Power 設定 “L10” で約 6 時間）

MPR52 受信機：約 2 時間（単三アルカリ電池 2 本）

※バッテリー駆動時間は運用環境に依存して短くなる場合があります。

## B 帯の周波数

### GP と CH

B 帯はグループ (GR) とチャンネル (CH) の組み合わせで運用できるようにプリセットが組まれており、同じグループ (GR 1~7) 内のチャンネルに設定することで混信することなく運用できます。

### 15 波の多チャンネル運用

Wisycom ワイヤレスシステムは L10 モードに設定することで最大 15 波※まで同一空間で運用することができます。GR を 00 に設定し、下記の表の帯カラーのチャンネルに合わせて運用できます。

CH	周波数		
1	806	125	1
2	806	250	1
3	806	375	2
4	806	500	2
5	806	625	3
6	806	750	3
7	806	875	4
8	807	000	4
9	807	125	5
10	807	250	5
11	807	375	6
12	807	500	6
13	807	625	7
14	807	750	8
15	808	875	8

CH	周波数		
16	808	000	8
17	808	125	9
18	808	250	9
19	808	375	10
20	808	500	10
21	808	625	11
22	808	750	11
23	808	875	12
24	809	000	12
25	809	125	13
26	809	250	13
27	809	375	14
28	809	500	14
29	809	625	15
30	809	750	15

※ Wisycom の多チャンネル伝送技術

狭いバンドで 15 波を運用できるように、送信機と受信機の両方に優れた技術が用いられています。相互変調歪 (インターモジュレーション) が発生しないように、送信機にはキャンセラー回路が設けられています。受信機では精度の高いフィルタ回路を搭載することで多チャンネル運用を最適化しています。



## 日本テックトラスト株式会社

営業所

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町 30-13 ONEST 元代々木スクエア 1 階

E-MAIL : [sales@tech-trust.co.jp](mailto:sales@tech-trust.co.jp) URL : <http://www.tech-trust.co.jp>